消化器腫瘍を対象とした遺伝子診断法とヒト型抗体による分子標的治療の開発

内科学第一講座 教授（研究責任者）篠村恭久・講師 佐々木茂・講師 山本博幸

内容の要約：第一内科では、患者さん中心の実践的研究を推進して遺伝子診断、分子標的療法やオーダーメイド医療の開発につながる臨床に還元できる価値ある成果を目指して精力的に研究を行っております。ジェネティック異常やエピジェネティック異常を網羅的に解析し、遺伝子情報に基づく消化器腫瘍の発生・進展の分子機構の解明およびその診断・治療への応用研究を展開しております。また、アポトーシスを誘導する抗erbB-2抗体CH401の樹立に成功し、分子標的癌免疫治療としての抗体医療への応用を展望したヒト型抗癌抗体の作製を産学官連携のもと、行っております。

消化器腫瘍のジェネティック、エピジェネティック異常の解明と臨床応用

Patient-oriented research

⇧ ⇩

Disease-oriented research

消化器癌（消化管，肝胆膵）
消化管間葉系腫瘍（GIST）

ジェネティック異常

⇧ ⇩

エピジェネティック異常

→

網羅的異常の解明

マイクロサテライト不安定性（MSI）

細胞外基質分解酵素（MMP）

インスリン様増殖因子受容体（IGF-IR）

SFRP, RASSF, WIF-1, EphB2, HDAC2など

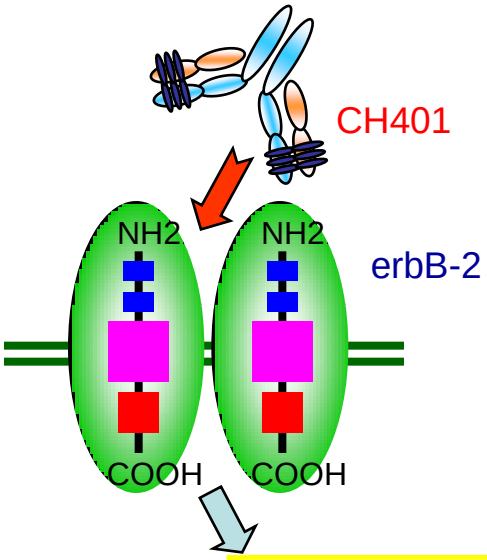
→

分子腫瘍マーカー

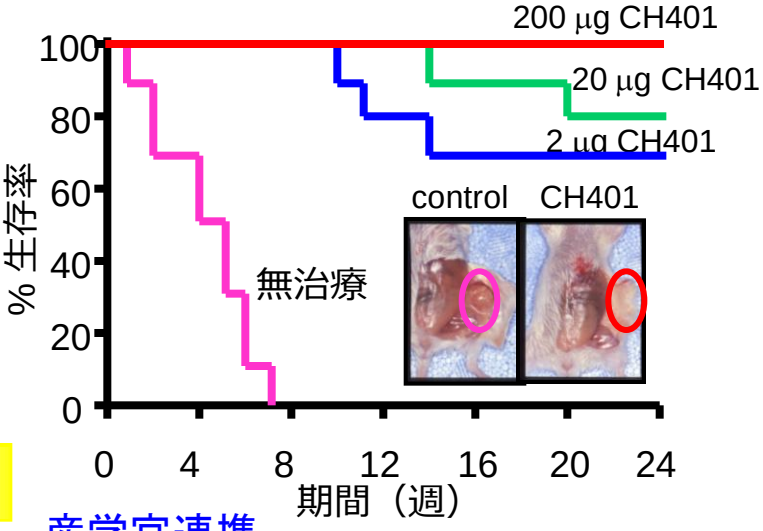
分子標的治療

オーダーメイド医療の実現化

アポトーシスを誘導する抗erbB-2抗体CH401の樹立と臨床応用



SCIDマウスに移植したヒト胃癌細胞に対する抗癌作用



消化器癌の発癌進展機序の解明

標的分子異常

→ 産学官連携 共同開発研究 知的財産権 →

臨床における診断治療応用

連絡先：山本博幸 (h-yama@sapmed.ac.jp)